技アリ！ いわての仕事録

変化し続けることで、伝統と技術を守りぬく

代表取締役社長 及川 勝比古

1 600kwの出力を有する高周波誘導電気炉。2基のるつぼで1500度以上で熔解した鋳物は素早く注湯ラインへと搬送されていく。
2 3 アルミ模型から鋳型を製造する自動造型機。ホッパから投入された砂で鋳型を作り、中子をセットするのは人の手で行われる。
4 溶けた鋳物は注湯ラインへ運ばれ、慎重に鋳型に注がれていく。この後冷却・ショットブラスト・研磨などの工程を経て素材が完成。
5 炊飯ジャー内釜の切削・研磨ライン。完成した素材はおよそ7kgあり、ここから本体にセットできるサイズにまで切削していく。オーダーに応えるため独自に切削用治具も開発した。
6 7 内釜の重量は1800gで誤差は20g以内。高い技術力と職人気質のスタッフが厳しい条件に応えている。
8 9 止水栓に塩ビのパイプをセット、製品として納入。

【支援企業紹介】奥州市

株式会社水沢鋳工所

南部鉄器の技で炊飯ジャーの内釜を作る。不可能への挑戦が、「ものづくり日本大賞」受賞に結びついた。鋳物の伝統産地で、常識にとらわれないものづくりを続けてきた水沢鋳工所を訪ねた。

［いわて産業振興センターの活用実績］
○紹介事業により、自動車部品メーカーから自動車用部品の受注を獲得
○平成17年度より「工程改善研修会」へ参加、各工程の生産効率の改善を実現した

長い歴史を誇る鋳物産地水沢で機械部品鋳物を手広く製造

欧米をはじめ中国など、世界各地で注目されている南部鉄器。そのルーツは盛岡市が南部藩の庇護のもと鉄瓶などの茶道具の生産から始まったのに対し、県南の水沢市（現在の奥州市）では「水沢鋳物」と称し、発祥は奥州藤原氏の時代にまでさかのぼる。室町時代以降は鉄鍋や鉄釜をはじめ大砲の製造も手がけるなど、盛岡とは違う歴史を刻んできた。

「ここ水沢は、時代とともに生きてきた鋳物産地。当社も昭和21年、鍋や釜の製造から始まりましたが、時代の変化に合わせ産業機械関係に特化してきました」。株式会社水沢鋳工所の及川勝比古社長がそう話す。

同社は水沢鋳物の発祥地・羽田町で創業し、7年後に市内春日町への移転とともに機械部品鋳物に品種を転換した。当時から主な供給先は関東の京浜工業地帯であり、高度成長とともに多様化する要望に応え実績を積み重ねてきた。

現在の生産品は、マンホールや止水栓などの下水道用部品ほか鉄道用部品、船舶部品など。いずれも摩耗性や耐蝕性、減衰性など鋳物の持つ特性を生かした製品で、顧客の約8割は県外だ。また当センターの紹介をきっかけに、20年程前には県内でもいち早く自動車部品へと参入、工場の海外移転が進展した現在も一定の受注がある。「高速道や新幹線など交通インフラのお陰で顧客との出会いが広がった」と及川社長はいう。

技アリ！ポイント

国内生産ならではの対応力やサービスが強み

確かに鋳物の需要は減少していますが、下水道用部品など多様なデザインに対応できるのは国内生産の強み。さらに当社では他素材の部材を調達し工場内で組み立てた「製品」を納入することで、海外との競争力を高めています。

不可能を可能にした高い技術でオリジナルブランド作りを描く

もちろん地の利だけで受注に繋がる訳などなく、及川社長は「いかに不良品を少なくするか、工程の工夫を重ねてきた」と振り返る。県内の鋳物業者ではほぼ例のないISO9001:2008認証を取得したのもその一環で、生産品における不良率（不良発生率）は全国平均の3％を下回るわずか1.5％。それでも「目標は1.2％」と及川社長は言い切る。

そんな技術への不断の挑戦が招き寄せたのが、象印マホービンの高級炊飯ジャーの内釜製造。2010年12月、図面を携えたメーカー担当者が来社、昔ながらの羽釜炊きご飯を再現できる鉄釜づくりを打診された。

「家電に求められるのは、量産が可能なことや防さび加工、そして寸法や精度を出すこと。かなり難しくリスクもあったが、やろうと決めて試作に取りかかりました」。

挑戦は、想像通り難しいものとなった。問題は鋳物内部に気泡が入ることで、「当初は6割が不良品になった」と及川社長。2011年3月、東日本大震災により生産体制に支障をきたしながらも、同社は気泡を解消するため釜厚を調整するなど様々な改善を重ね、10月の一般発売にこぎつけた。反響は大きく、家電量販店では今なお品薄状態が続いており、2013年には国が実施する「ものづくり日本大賞」において、伝統技術の応用部門の経産省特別賞を受賞。「改めて南部鉄器のブランド力を感じた」とも及川社長はいう。

産業機械から家電へと、鋳物そのものの可能性を拡げた同社。「ゆくゆくは自社製品を作る体制を整えたい」と及川社長はビジョンを描き、「そのためには技術継承と常識にとらわれないものづくりが必要」と人材育成へも力を入れていく考えだ。

企業データ

会社名	株式会社水沢鋳工所	創業	昭和21年（1946）1月
本社	奥州市水沢区太日通り1-8-15	従業員	58名
電話	0197-24-7218（代）	業種	鋳造、金属部品製造・加工、塗装一貫生産
代表者	及川 勝比古		